

# 受注堅調、調達も改善

## 稼働率は2割が上昇

### ネットイーグルの第2回緊急電話調査

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）が全国のプレカット工場を対象に8月2～17日に実施した第2回ウッドショック緊急電話調査で、木材の在庫確保について「入ってきている」が前回調査（5月）の8%から21%に増える一方、「全く入っていない」が前回の12%からゼロとなり、調達状況が改善していることが分かった。新規受注は50%が「断っている」が、稼働率は「変わらない」が68%を占め、受注は堅調。今後の受注は「今までどおり」が46%、「増加する」が13%で、減らないと見る工場が過半を占めた。

回答者数は193社（ウッドショックの度合（前回は202社））。—いについては「大き

い」が67%（前回74%）と引き続き高水準。現状の在庫は「既に不足」が22%（同16%）と増えたが、「ある程度調達」も28%（同12%）と増え、在庫格差がやや開いた。在庫のめど（8月上旬時点）は「8月まで」が7%、「9月まで」が15%、「10月まで」が13%だった。

と減る一方、「少しは入ってくる」が42%（同35%）、「材料持ち込み」が8%（同6%）と増え、代替品への依存度がやや低下した。ウッドショックがいつまで続くかでは、「年内」終結が49%（同37%）と増えたものの、「見えない」も35%（同56%）あり、依然として不透明感が濃厚だ。木材価格の値上がりは「2倍」が40%（同36%）と最も多い。見積もりは「増えている」が36%（同43%）と減少したが、「減っている」も6%（同7%）にとどまり、「変わらず」が58%（前回は49%）と大きく増えた。

見積もりの有効期間は「1カ月」が53%（同は54%）、「時価」が17%（同12%）。新規受注は「断っている」が50%（同58%）とやや減少し、「受けている」が34%（同28%）とやや増えた。「条件付きで受けている」は7%（同10

%)。稼働率は低下した工場が11%（同17%）と減少する一方、上昇した工場が19%（同12%）と増えた。今後の受注については「予想できない」が28%（同42%）と大きく減少し、「今までどおり」が46%（同30%）、「増加する」が13%（同7%）と増え、受注の見通しは開けつつある。